

船舶事故調査報告書

平成28年6月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年11月21日 08時12分ごろ
発生場所	愛媛県上島町豊島東岸 豊島二等三角点から真方位040°550m付近 (概位 北緯34°14.1′ 東経133°15.9′)
事故の概要	プレジャーボート美瑛丸は、漂泊中、豊島東岸に乗り揚げた。 美瑛丸は、船底外板に破口等を生じた。
事故調査の経過	平成27年12月3日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 美瑛丸、5トン未満（長さ5.90m）
船舶番号、船舶所有者等	270-14450広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者等	なし
損傷	船底外板に破口を伴う擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 2～3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期、潮流 西流約0.6ノット
事故の経過	<p>本船は、船首約0.3m、船尾約1.0mの喫水で、船外機を停止して漂泊しながら流し釣りを行っていた。</p> <p>船長は、風潮流に圧流されて豊島東岸に約20mの距離まで接近したので、潮上りをするとし、船外機のチョークレバーを約1秒引いてから始動ボタンを押したが、船外機が始動しなかった。</p> <p>船長は、その後も何度か始動ボタンを押したものの、本船は、船外機が始動しないまま、風潮流に圧流され、豊島東岸に乗り揚げた。</p> <p>本船は、来援したマリーナの船にえい航されて帰港し、その後、船外機のチョークレバーを約5秒引いてから始動ボタンを押したところ、船外機が始動した。</p> <p>船長は、購入してからの船外機の操作経験が少なく、本事故後、チョークレバーを引いている時間が短かったので船外機が始動しなかったのかもしれないと思った。</p>
分析	<p>本船は、豊島東方沖において、釣りをしながら漂泊中、風潮流に圧流されて豊島東岸に接近した際、船長が、船外機を始動しようとしたものの、船外機が始動しなかったことから、風潮流に圧流されて豊島東岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、船外機の操作経験が少なかったことから、船外機を始動できなかった可能性があると考えられるが、その状況を明らかにするこ</p>

	とはできなかった。
原因	<p>本事故は、本船が、豊島東方沖において、風潮流に圧流されて豊島東岸に接近した際、船長が、船外機を始動しようとしたものの、船外機が始動しなかったため、風潮流に圧流され豊島東岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機関の使用方法を熟知しておくこと。